Fashion Channel News

- June, 2025 -

#1867 2025 Spring/Summer TOKYO COLLECTION REPORT 5

[収録ブランド] O0u / PH MODE x TYO by MFF / 六舞宴｜ ROKUBUEN / SEVESKIG / (un)decided / SHINYAKOZUKA / support surface / TAE ASHIDA / WIZZARD / 52tenbo+

#1868 2025 Spring/Summer TOKYO COLLECTION REPORT 6

[収録ブランド] TELMA / VEIN / VIVIANO / WILDFRÄULEIN / WISHARAWISH / yoshiokubo / YUEQI QI / / 早稲田大学繊維研究会

#1869 2025 Bridal Collection Special

[収録ブランド] Yumi Katsura / Sachiko Tsutsui / Kiyoko Hata / THE HANY / TARO KAMITANI / Nuance / Vivienne Westwood / (Special Feature) 戸板女子短期大学 I

#1870 2025 S/S LONDON COLLECTION REPORT

[収録ブランド] ERDEM / JW ANDERSON / SIMONE ROCHA / misaharada / TOGA / SHINO / OMAR AFRIDI

#1871 2025 S/S PARIS HAUTE COUTURE COLLECTION REPORT

[収録ブランド] CHANEL / DIOR / GIORGIO ARMANI PRIVÉ / JULIE DE LIBRAN / JULIEN FOURNIÉ / YUIMA NAKAZATO

INFASWAVE
7-20-6 Roppongi Minato-ku Tokyo 106-0032
TEL. 03-3746-3323FAX. 03-3408-5549
URL. https://fashionnews.co.jp E-MAIL. info@fashionnews.co.jp

Collection

#1867 #1868

日本ならではの技術と発想力でスタイル構築

2025 春夏 東京コレクション

国内最大級のファッションの祭典「楽天ファッション・ウィーク東京 (RFWT) 2025 春夏」が 2024 年 9 月 2 日～ 7 日の 6 日間にわたって開催された。メインイベントである東京コレクションには、国内外合わせて 33 ブランドが参加。そのうち、ランウェイショー形式での発表は 26 ブランド、デジタル発表は 7 ブランド。ブランド数は前年同期と比べて大幅に減ったものの、日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFW) によるブランド支援プログラム「JFW NEXT BRAND AWARD 2025」受賞ブランドの「TELMA (テルマ）」や、「Chika Kisada (チカキサダ)」「FETICO (フェティコ)」「PILLINGS (ピリングス)」「YOSHIOKUBO (ヨシオクボ)」ら過去にアワードを受賞した実力派ブランドが勢揃いし、質の高いコレクションを展開した。

初参加は「TENBO (テンボ)」のデザイナー鶴田能史と元大関の小錦八十吉がタッグを組んだプラスサイズブランド「52TENBO+ (コニテンプラ)」や、イタリアの「HOUSE OF MUAMUA (ハウス オブ ムアムア)」、サステ (ナブルブランド「O0u (オー・ゼロ・ユー)」など 6 ブランドを数えた。

また RFWT 会期中は、1990 年代～ 2000 年代初頭の “あんとき (あの時)”のストリートスタイルをテーマにしたフリーマーケット「あんとき」や、AI 技術とファッションを融合させた「TOKYO AI Fashion Week 2025S/S」コンテストなど、楽しいイベントが都内各地で開催され、ファッションの祭典を盛り上げた。

注目ブランドはブランド初のランウェイショーを開催した「TELMA」。“鶴の恩返し”をテーマに、シースルー素材を多用したレイヤードルックを披露した。オリジナルテキスタイルの開発に力を入れてきたデザイナーの中島輝道は、麻のような風合いを生み出すコンニャク樹脂を使用したコートや、和紙 100%で仕立てられた軽やかなテーラードジャケットを提案。日本の伝統技術を生かした服作りで大きな注目を浴びた。中島デザイナーはベルギーのアントワープ王立芸術アカデミーを卒業後、「DRIES VAN NOTEN (ドリス ・ヴァン・ノッテン)」「ISSEY MIYAKE (イッセイ・ミヤケ) で経験を積んだ実力派だ。

アダストリアの子会社、アドアーリンクが展開するライフスタイルブランド「O0u(オー・ゼロ・ユー)」がは、テレコムセンタービルで初のランウェイショーを開催した。コレクションテーマは “LIVING IN A CIRCULAR WORLD”。円を描いて循環する社会に思いを馳せて、再生ポリエステルや天然素材、リサイクル原料といったサスティナブル素材で仕立てたコンフォータブルウェアを提案した。カラーパレットには、流行に捉われないホワイトを軸としたクリーンな色彩を採用。デザインの核となる柔らかな曲線や円形のモチーフが、自然体や平和の象徴としてコレクション全体に統一感をもたらしている。

＊放送スケジュールは CATV 局により異なります。

new

Collection

#1869

幸せオーラ全開！ 最新ブライダルコレクション

2025 Bridal Collection Special

毎年、好評を博しているジューンブライドスペシャルをパワーアップ。

日本のブライダルファッション業界をリードする「YUMI KATSURA (ユミ・カツラ)」のブランド設立 60 周年イベントをはじめ、国際的なブライダルファッションウィークに名乗りを上げたブランドや、人気ドレスデザイナーによるブライダルコレクション、キラキラのブライダルアクセサリーなど、幸せの時間を華やかに彩る最新ブライダルコレクションを紹介する。ブライダルコレクションを通じて、視聴者とともにその幸福感を分かち合う。

Collection

#1870

40 周年を祝して、ロンドンに敬意を表す

2025 春夏 ロンドンコレクション

2025 春夏 ロンドンコレクションが 2024 年 9 月 12 日〜 17 日の 6 日間にわたって行われた。40 周年のアニバーサルイヤーを迎えた今年は、低迷する経済を吹き飛ばすかようなポジティブなコレクションが展開された。「NINA RICCI (ニナ・リッチ)」のクリエイティブ・ディレクターを務めるHarris Reed (ハリス・リード) が”ロンドンのファッション史”をテーマにプレゼンテーションを披露したほか、”持続可能性”を 2009 年から提唱している「REABURN (レイバーン)」(デザイナー：Christopher Raeburn、クリストファー・レイバーン) が回顧展をおこなうなど、ショー以外のイベントも充実。見どころ満載のシーズンとなった。番組では「SIMONE ROCHA (シモーネ・ロシャ)」「ERDEM (アーデム)」「JW ANDERSON (JW アンダーソン)」など、ロンドンを代表する 5 ブランドを紹介する。

ロンドンデザイナーたちが提案したのは、レースやチュール、オーガンジーなどの軽く透ける素材に、ミリタリーの要素を掛け合わせたロマンティックなスタイル。そこには不安定な社会情勢に立ち向かおうとするデザイナーたちの強い意志が込められている。Jonathan Anderson (ジョナサン・アンダーソン) が手がける「JW ANDERSON」は衣服の本質を探求すべく、使用素材をシルクサテン、カシミヤ、牛革、スパンコールに絞ったクリエーションを展開した。シルクサテンにニットカーディガンの柄をプリントしたり、レザーでチュチュを仕立てるなど、意表をついたスタイルが登場。マクロとミクロを対比させたデザインで、シルエットをデフォルメさせているのが特徴だ。

Collection

#1871

ビクトリア朝の装飾が軽さをともなって復活

2025 春夏 パリオートクチュールコレクション

2025 春夏 パリオートクチュールコレクションが 2025 年 1 月 27 ～ 30 日の 4 日間にわたって開催された。今季は 28 メゾンが参加。世界最高峰の職人技による、創造性に満ちたドレスが勢揃いした。2025 春夏シーズンは、ビクトリア時代のバッスルやラッフルカラー、フラッパー風のフリンジが華々しく復活。冒険的なシルエットやシアー素材により、クラシックなエレガンスをモダンに昇華させている。

注目トレンドはドレスを華やかに彩るティアードフリル。ロマンティックなドレスにフリルをレイヤードすることで、シルエットにひねりを与え、ボリュームのあるシルエットを形成させる。チュール、シフォン、ビーズを飾ったネットといったシアーなマテリアルが身体のラインをなぞり、センシャルかつミステリアスな女性の魅力をアピールする。伝統的なベールに代わるディテールとして重用されたのはフードやケープ。頭から身体に向かって広がるこれらのディテールが彫刻的なドレープを描き出し、躍動感を演出する。

「CHANEL (シャネル)」がオートクチュール事業を始めて 110 年。クリエイション・スタジオが手がけた今季は、創業者 Gabrielle Chanel (ガブリエル・シャネル) の色に対する情熱と、カラーが持つパワーに焦点を当てた。ホワイト、パステル、ブライトトーン、ミッドナイトブルー、そしてブラック。明るいイエローのスーツからボックスプリーツのライラックのドレス、刺繍が施されたホワイトとブラックのツイードのスーツへと変わる色彩は、朝から夜へと流れる時間の経過を表現している。ブランドアイコンのツイードスーツはジャケットをクロップド丈に、スカートをショート丈することで、モダンにアレンジされている。

Maria Grazia Chiuri (マリア・グラツィア・キウリ) がデザインする「DIOR (ディオール)」は、Lewis Carroll (ルイス・キャロル) の小説『不思議の国のアリス』を着想源に、ファンタジックなコレクションを展開。ミニ丈のクリノリンやパニエスカートは刺繍の枝葉で覆われ、軽やかなブラウスはバラやフリージア、クレマティスといったフローラルモチーフがあしらわれている。Yves Saint-Laurent (イヴ・サンローラン) が 1958 年のデビューコレクションで披露した Trapèze (トラペーズ) ラインを思わせるブラックのミニドレスが、少女の可憐さと大人の女性の二面性を体現する。1947 年に発表されたバー・ジャケットは再解釈され、アウターあティアードケープとなって登場した。